

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成26年2月28日

開催日	平成26年2月27日	時間	10:00~12:00
場所	金沢公会堂3号室	出席人数	12名
講師	真田雅行氏	作成者	伊達一雄
テーマ	第2学習 江戸時代の絵島生島事件②		
概要	<p>この事件の背景には六代将軍家宣の正室熙子(後の天英院)と側室で七代家継の生母お喜世(後に月光院)の大奥での争いがあった。今回は事件発覚後の幕府の対応などを記した文書を読んだ。</p> <p>①兼山麗澤秘策 儒学者の室鳩巢(ムロキユウソウ)が事件後12日余りで書いたもの。まず生島新五郎について「申隠もなく美男と申候」と記し、「急速ニ御僉議有之」と直ぐに僉議(多人数の評議)が行われたことが分る。その結果、奥女中9人は「一門一生御預」になり、芝居の棧敷で取り持ちをした後藤縫殿助らも調べられ、下女も残らず追放になった。絵島と宮路については「此度僉議嚴重なる様子に候」と記し、「是八月光院様御下知、亦は間部殿より出申と推量仕候」、つまり事件は月光院の下知(指図)か側用人の間部詮房(まなべあきふさ)から出たのではないかと推量している。そしてこれで大奥の作法が少し直ると言うべきだが、常憲院(五代将軍綱吉)の頃から段々不作法(風紀の乱れ)になったと言っている。また絵島の出自は「小身之旗本ニ一門有之」、宮路は「俗姓賤しき人」と記している。作者は絵島や宮路に同情することなく事件をほぼ肯定しているが、幕府の対応の素早さと調べたのが全て天英院派の老中、目付などだったのが注目される。</p> <p>②間部日記、将軍を補佐する実力者の間部が江戸城での一幕を記したもの。まず亡くなった家宣の御中陰(四十九日)が明けて、御臺様(正室)は天英院に、側室の左京様が月光院となったことを記したが、月光院は「天英院様御次御順」つまりまだナンバー2であると書いている。十二月十一日には上様(家継)が今日初めて御三家に御対顔(面)したと、側近だけが知り得る江戸城中での将軍の話が面白い。しかも、黒書院(将軍の応接所)に「出御越前守奉抱之」、越前守(自分)が抱きかかえてお目見えしたと自慢げに記している。</p> <p>この時家継は僅かに4歳だがその後7歳で死去、後継者を巡る争いに発展した。絵島生島事件は謎が多いが、事件の解明はどうやら天英院のペースで進んでいるようである。</p>		
次回予定	平成26年3月13日(木)10:00~12:00 於: 金沢公会堂3号室 第1学習 宿村 布川家文書③		